

9月に入りました。お盆には、普段はなかなか会えないご家族と共に、お仏壇の前で手を合わせたり、亡き人の懐かしい思い出話などされた方もいらっしゃることでしょう。

私は小学生の子どもがおりまして、夏休みに、その娘が私の実家に一人で泊まりに行くことになりました。自分で荷造りを終えて娘が尋ねました。

「あとなにしなきゃいけない？私、おばあちゃんに行ってきますって言うてくる」

それを聞いて、考えるより先に、

「仏様にも行ってきますと手を合わせてきなさいよ」と言葉が出ました。

思えば、私が子どもの頃に泊まりで出かけるときには、母から必ず阿弥陀様に『行ってまいります』と『無事に戻ってまいりました』と手を合わせに行くよう言われました。その記憶が娘に先ほどの言葉を言わせたのだと思います。母はもうおりませんが、ふとしたことで今

なお、傍にいて大切なことを教えてくれているように感じます。

お年玉をいただいたらお仏壇へもっていきなさい。成績表をもらったならお仏壇へ見せに行きなさい。誰が見ていなくても仏様が見ていらっしゃるよ、などと言われると、仏様というのは、なんでもお見通しの恐ろしい方のようにも思ったものです。お寺の娘だったことあるでしょうが、子どもの頃は何かと身近に阿弥陀様がおられました。

少し大きくなると仏教など非科学的で役に立たないと、疎ましく感じる時期もありました。一人暮らしを始めると、お仏壇のない生活の中で手を合わせる習慣など忘れて、好き勝手に遊び歩いておりました。科学的で人の役に立つお勉強をする自分を誇らしく思っておりました。そんな生き方は面白おかしかったのですが、突き詰めていくほどに、科学にも重要な部分ですら解決できていないことがたくさんあると知りました。

そんな折に、阿弥陀様は働きた。風と同じで目には見えないけれど、確かに存在しているというお話を聴きました。

私たちはどうして、風が存在することはなんの疑問もなく信じるのに、阿弥陀様が存在することは信じられないのか。目に見えないからいるかいないかわからないと申します。

夜、家に帰ってスイッチを押すと、電球に明かりが灯るのを誰も疑問には思いません。では、本当の意味で、どういう仕組みで明かりがつくのかを分かっているのでしょうか。あるいは、電気そのものを自分の目で見たことがあるのでしょうか。私たちは科学のことはほんとはよく分かっているなくても、見えなくても、信じるのできるのです。

私たちは自分勝手に何かを信じてみようとしたり、疑ったり、あるいは、思い出したり、忘れてしまいます。それでも阿弥陀様は、どんなときも変わらずそばに寄り添っていただいています。そうすると、子どもの頃はなんだか怖く感じた「誰が見ていなくても仏様が見ていらっしゃる」という事は、もったいないほどに頼もしくありがたいことに思えてまいります。

